

被災地災害 VC 入りしてまず行うこと

運営支援者として被災地入りした後、現地の状況や雰囲気把握するとともに、災害VC関係者との顔の見える関係を構築することが必要です。できるだけ早い段階で次のことを行いましょう。

① 前任者とコミュニケーションをとる。

先に派遣され活動していた運営支援者は、現地で一番コミュニケーションをとりやすい仲間です。現在の災害VCの状況や課題を把握します。

② 現地のスタッフとコミュニケーションをとる。

前任者とともに、災害VCのスタッフ(センター長、社協等、災害VC設置組織代表、地元スタッフ、県社協スタッフ、継続支援を行っているNPO関係者など)とコミュニケーションをとり、手短かつ謙虚に、自らの被災地入りと今回の役割、自分の所属などを伝える。

こちら側からの一方的なコミュニケーションや名刺交換だけの挨拶にならないように態度や姿勢、表情に気をつけましょう。スタッフの心労をねぎらい、スタッフの思いや考え方を受け止めるように心がけることも大切です。

③ 被災地の状況を直接確認する。

前任者や地元スタッフとともに、被害の多い地域、災害VC(支所、サテライトを含む)避難所や仮設住宅の様子を見聞きし、現場の実態や雰囲気を実感します。

④ 災害VCの支援状況の確認

災害VCには、貼り出し情報やこれまでの活動のまとめがあります。前任者が準備してくれる場合もありますが、活動の迷惑にならないように資料収集しましょう。

ニーズ票やニーズボードなどから、被災者ニーズの変化を読み取ることができます。